

令和6年度 鴨川フォローアップ委員会

■開催日時

令和7年3月21日（金） 14時45分～17時00分

■開催場所

京都テルサ東館3階D会議室

■委員:8名（五十音順）

丘 眞奈美（京都ジャーナリズム歴史文化研究所代表、歴史作家）

川池 健司（京都大学防災研究所 教授）

川崎 雅史（京都大学大学院工学研究科 教授）

北野 慎一（京都大学大学院農学研究科 准教授）

金田 章裕（京都大学 名誉教授）【委員長】

佐山 敬洋（京都大学 防災研究所 教授）

林 倫子（関西大学環境都市工学部 准教授）※WEB

水野 歌夕（写真家）

■議事内容

- ・「鴨川河川整備計画」の進捗点検について
- ・「千年の都・鴨川清流プラン」の進捗状況について

○「鴨川河川整備計画」の進捗点検について

<京都府から説明>

（資料に沿って説明）

<意見・質疑等>

【委員】

護岸の覆土について、植生が青々と根付いていたり、石畳舗装や天端のサイクリングロードなど色合いも統一されていて、佳良な河川景観が整備されていると感じました。

ただし、護岸の石の色合いについて、少し明るい色であったため、顔料などを入れるなどして、自然景観になじむようにすると、さらによくなると思います。

総じて壮大な河川景観ができると思われるため、ぜひ事業を継続していただくとともに、人口減少等で公共事業の整備費がますます厳しい状況になると思われるため、早期に事業を進めることが望ましいです。

費用便益費のB/Cについて、前回は11.5で今回は8.2と減少していますが、これは整備が進むとBが減少するようなものと認識すればよいのでしょうか。

【京都府】

B/Cが11.5から8.2に減少したのは、評価基準年の変更や治水経済マニュアルの改訂、資産数量や評価単価の見直しが主な要因であり、事業が進んだことによるものではありません。

【委員】

マニュアルが変更にならない限り、次の段階では8.2を基準に考えればよいでしょうか。

【京都府】

そのとおりです。

ただ、全国的において、下流部の資産価値が高いところの事業が完了し、上流部が少し残ったりすると、残事業におけるB/Cが小さくなるケースはあります。

【委員】

今回の整備で、平成25年9月の台風18号と同等の洪水に対する浸水被害を防げるようになるのでしょうか。

また、桂川と合流点付近で未改修部分があるが、これの改修時期を教えてください。

【京都府】

平成25年の台風18号は桂川のバックが影響して浸水被害が発生したものであり、桂川の水位次第になると思われますが、当時の越水高さより、堤防高さが高くなるように堤防整備を行っています。

桂川合流点付近を含む京川橋下流の鴨川本川について、左岸以外は令和6年度中に改修が完了する予定であり、左岸につきましても、令和7年出水期までに改修が完了する見込みです。

【委員】

事業はこのまま進めていただくほうがよいです。

B/Cにより生命や資産を守るという観点で事業の評価をされていますが、これに加えて、親水域の確保という点についても、積極的に評価することもいいと思います。

鴨川と西高瀬川の背割りの区間について、植生を植えたり、公園整備を行うなどの計画はあるのでしょうか。

【京都府】

当該箇所について、現時点で公園施設を整備する計画はないです。

ただ、現在は工事の拠点として、現場事務所等を設置するヤードとして活用していますが、工事が完了すれば、自然な草が生えた空間として整備していきたいと考えています。

【委員】

平成25年の台風で壊滅的な被害を受けた旧龍門堰あたりが非常にきれいになっていたことがよかったと感じました。

先ほどご説明いただいたように、鴨川の治水対策において、桂川との関係性が重要と思われる、桂川管理者とはどのように調整されているのか教えてください。

また、近隣の住民と協力されて親水空間の管理を行っていると現地で説明を受けましたが、具体的に教えてほしいです。

【京都府】

桂川の管理者は国であり、桂川においても平成25年の台風後、引堤による河道拡幅や河道掘削・堰の改築などの河川改修事業を実施されており、平成25年台風18号と同じような雨量でも水位が低減される見込みです。

近隣の住民と協力して、親水区間を管理している事例ですが、旧龍門堰跡地下流の高水敷について、地元でグラウンドゴルフをされている団体の方と協定を結び、草刈りをお世話になっている状況です。当方も、鴨川で草刈り業務をおこなっていますが、この区間は業務範囲から外しおり、ゴルフをされている方の使い勝手のよさと、我々の維持管理のコスト縮減とが相まって、いい取組ができていると考えております。

【委員】

環境に配慮した河川整備で、河床の洲を残している点が良かったです。大規模な改修にもかかわらず、景観が非常に良くなり、良い印象を受けました。

【委員】

河川内の土砂の掘削方法について、環境配慮に関する工夫をされていれば教えてください。

また、生態系への影響については、5年ごとに調査を行われており、令和6年度が調査の時期になると思われます。調査結果をもとに、今回の工事による生態系への影響について、分析されていれば教えてください。

【京都府】

河川工事では一部土を残し、緩傾斜で仕上げることにより、洪水時に全ての植物が流出されるのではなく、1年に1回流される場所、2年に1回流される場所というように、洪水による植生の流出に段階が出来るよう、整備を行っています。

また、今年度の環境調査に関するとりまとめはまだできておらず、今後さらに検討を進める予定です。

【委員】

環境面については、鴨川の中でも1つ関心の高いジャンルだと思うので、ぜひ今回の取り組みの成果を評価してほしいです。

【委員】

いろいろ御意見いただきましたが、おおむね工事の状況について、理解いただいたと思います。また、生態系への影響への調査などについては、今後取りまとめるということですが、きめ細かく環境に配慮して施工されているということもご理解いただいたのではないのでしょうか。

また、むしろ工事を早く進めた方がいいとか、地元住民と協力して河川管理を行われていることは有効であるなどといった様々な意見をいただきました。

最後に京都府が作成された鴨川河川整備計画の対応方針案につきまして、何か意見がないか確認いただきたいと思います。

もし、特に問題ないということであれば、本委員会としては、この対応方針が妥当であるという意見としたいと思いますが、いかがでしょうか。

(意見なし)

それでは、本委員会において、この対応方針が妥当であると意見します。

○「千年の都・鴨川清流プラン」の進捗状況について

<京都府から説明>

(資料に沿って説明)

【委員】

鴨川上流の北部地域は災害に対する安全性が確保されているのかということと、大学等の鴨川の利用者が所属する機関などに対して、ごみの放置をしないにするようなアナウンスをされているのかを教えてください。

【京都府】

鴨川上流の北部地域の安全性について、七条から上流は掘込区間で、満流評価であれば、計画流量が流れるという状況になっています。この計画流量は30年に1回の確率の流量であり、鴨川のような市街地を流れる川であれば、50年に1回の治水安全度が望ましいので、さらなる河川改修が必要と考えています。

ごみに関して、京都土木事務所が年間335日、ごみの清掃をしており、またボランティア団体も清掃活動を行っていただいています。やはり発生源対策というのはなかなか手が届かないところです。ただ、令和5年9月から京都府、京都市、近隣の民間企業、大学などのメンバーと一緒にパトロール活動を実施しております。

また、京都にアメリカのテンプル大学が来ており、インバウンドの増加に対応するため、先週末と一緒にパトロールをしましたが、観光客へのネイティブなアプローチの仕方が非常に参考になりました。今後は、このようなアプローチの仕方も学び、これまでとは違った方法を取り組みながら、河川美化やマナーの啓発をしていきたいと思っております。

【委員】

そのほか、鴨川を美しくする会や鴨川流域ネットワークなどが鴨川周辺の小学校に行き、ごみの啓発活動なども行っています。

【委員】

素晴らしい取組をされていると思いますが、それを踏まえていくつか提案させていただきたいと思います。

「山河襟帯」「山紫水明」というように、昔から京都の里山（京都三山）と川はセットで讃えられてきました。この言葉の示す如く京都の景観や安全を守るためには、里山と川は一緒に考えねばならないと思います。

林野庁と提携し、上流域の降雨の涵養が可能な森林の保全などとセットで行うことが必要です。

また、景観や安全において「山と川がセットである意義」を伝えるために、京都三山の保全の委員会と合同でフォーラムを開催するなどによる文化発信も有効だと思います。

鴨川に架かる橋や河川敷で中心的な観光拠点として賑わっているのは、三条大橋から四条大橋の間です。

もう一か所、鴨川に現存する最古の橋（大正2年架替）で、国の登録有形文化財に指定されている七条大橋と河川敷一帯を新たな文化観光拠点として整備してほしいと思います。

なぜなら、七条大橋は京都駅から三十三間堂や京都国立博物館などへの観光客の導線上にあり、現在はインバウンドの往来が多く、一帯には外国人観光客を意識した宿泊施設や

飲食店などが急増しているからです。

また、七条大橋の周辺に京都市立芸術大学をはじめ芸術や伝統工芸関連の学校が移転してきているので、それらの学生たちにも呼びかけ、イベント利用や河川敷にアート作品を置くなどといったアート空間の創出も一つとして考えられるのではないのでしょうか。

【委員】

森林管理の不十分さ、特に私有林が所有者不明の状態となってしまう、管理がなかなか行き届かないことも一つの問題点だと思います。

【委員】

近年、1/1000程度の降雨に対するハザードマップが作成されましたが、1/30や1/50程度の降雨が発生したときに、京都市内や地下街などへの浸水被害を予測することは重要であり、そのうえで、現在構築を行っているリアルタイムで氾濫を予測できる新洪水予報システムなどを使って、市町村と協働しながら、1/30や1/50程度の降雨が発生したときのシナリオを考えていくことが重要です。

また、鴨川の上流まで整備が進むのに、実態として100年、200年とかかると思われます。河川整備を下流から進めるのは基本だと思いますが、これと同時に、中上流域においても、中間的な対策をすることによって、少し安全性を高めるような計画を策定してはどうでしょうか。

【京都府】

河川整備計画ではおおむね30年間で実施する内容として、七条から下流の河川整備を位置付けています。

ご指摘のとおり、中上流部分も対策する必要があると、千年の都の清流プランでは、二条から上流の柊野堰堤までの間において、中州・寄州管理ということで、堆積土砂の撤去対策を位置付けています。

【委員】

七条大橋付近が整備されることにより、京都駅から鴨川を歩いて、四条や五条の町の中心部へ行ける南北の歩行動線ができれば望ましいです。

また、中州管理について、経費が多くかかると思われるので、掘削量を増やすなど効率的に土砂を掘削する検討も必要ではないかと思います。

【委員】

鴨川について、歴史的に土砂堆積をすることを前提に設計されている河川であり、土砂の

撤去に手間がかかるということは宿命的であると思います。

エアコンの室外機の対策を行うことは、一般的な方々の目線にとっての景観という意味で、とても効果が大きいと思われるので、ぜひ進めてほしいです。

【委員】

水位や画像などの河川の情報をリアルタイムで発信しているウェブサイトについて、更新する予定はないでしょうか。

【京都府】

カメラや雨量水位に関する情報を発信しているシステムについて、システムそのものを更新する予定はありませんが、2系統にして安全性を向上させるなどといったことは実施しています。

【委員】

京都は鴨川を中心に琵琶湖疏水や高瀬川など、水の文化として発信できるものを持っているので、市民の方が京都の水文化を勉強できるような取組があればよいと思います。